

横須賀市野比の植物相と自然環境評価

大森雄治*・菅原 敬**

Flora of Nobi, Miura Peninsula and the estimation of its environment

Yuji OMORI* and Takashi SUGAWARA**

435 taxa of vascular plants, 6 taxa of bryophytes and 73 taxa of mushrooms are reported from Nobi, Miura Peninsula. 4 saprophytic orchids, *Hetaeria sikokiana* (MAKINO et F. MAEKAWA) TUYAMA, *Cymbidium macrorhizon* LINDEL., *Lecanorchis nigricans* HONDA, and *Epipogium roseum* (D. DON) LINDEL. are new records for Nobi. The latter three species were characteristically observed on the forest floor of *Pasania edulis* (MAKINO) MAKINO. Most of the specimens were deposited in the herbarium of the Yokosuka City Museum (YCM). The EC-Index devised by Dr. T. OHBA, which evaluates the natural environment, gives larger values for Nobi than the surrounding areas. The data presented here reveals that the forest, the paddy field and the sea shore in Nobi are preserved in good condition without serious disturbance.

はじめに

人口の急増する都市近郊地域では、宅地開発や道路の建設、あるいはゴミ処理のための埋立などにより、身近な自然環境が次々に失われつつあり、その弊害は日毎に大きくなっている。これは横須賀市でも例外ではない。都市近郊の整備は、市民にとって重要な課題であるが、一方で良好な自然環境を身近に確保し、保全していくことも必要なはずである。横須賀市の東部はすでにかなり都市化が進み、広い面積をもつ山林や海岸の保全は望めないが、それ以外の地域では保全に値する地域がまだ残され、それをどう扱うかが自治体と市民に課せられた大きな問題となっている。

この調査は、ゴミ埋め立て地として注目されている横須賀市野比と神明町との境に位置する山林とその周辺の植物相を詳しく調べ、その特徴を明らかにするとともに、当該地域の環境評価を試みたものである。結果はこの山林や周囲の海岸が三浦半島の自然環境を代表するものであり、都市近郊の緑地として優れたものであることが明

でもない。三浦半島全体の都市化が進む中で、市民の身近な自然空間として、また優れた自然環境の保存の場として、この野比の山林、谷戸、海岸を残すべきであろう。今回の調査を基に三浦半島における自然環境の保全を再考し、さらに全域にわたる植物相の詳しい調査を続けたい。

調査方法

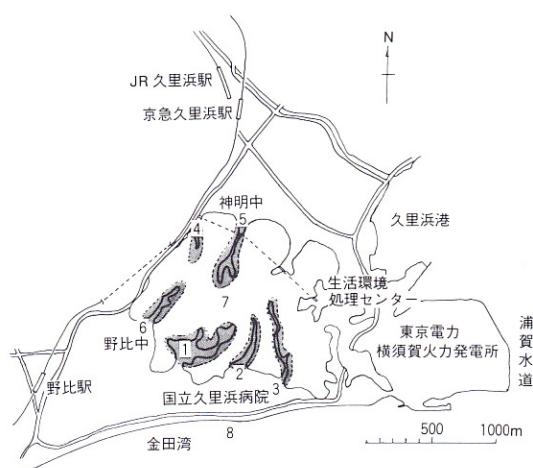
調査地域を環境別に8地域、谷戸1～谷戸6(三浦半島では生活の場として谷をよく利用し、それを谷戸と呼んでいる。これは一地方の言葉であるが、典型的地形をよく表現しているので、ここではそのまま用いる。), 尾根、海岸に分け(第1図)、現地踏査して、目撃記録を取り、地域ごとに整理した。調査対象は維管束植物を中心にして、大型のキノコもできる限り加えた。また、水系で

* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka, 238.

** 弘前大学理学部生物学教室 Faculty of Science, Hirosaki University, Hirosaki 036.

原稿受付 1990年9月30日 横須賀市博物館業績 第401号

キーワード：環境評価、植物相、三浦半島 Key words: estimation of environment, flora, Miura Peninsula



第1図 調査地域(横須賀市野比), 1~6: 谷戸, 7: 尾根, 8: 海岸。

は淡水の大型藻類や蘚苔類も記録した。野外では同定の不確実な種類に関しては採集して標本を作り博物館資料として登録し、正確に同定することを期した。さらに蘚苔類・菌類の多くは専門家に同定を依頼した。

調査日は次の通り: 1988年4月6, 27日, 5月18, 25日, 6月17, 29日, 7月13日, 8月19日, 9月1日; 1989年7月8日, 8月23日; 1990年4月5日, 7月15日。

生物による自然環境評価の目的と方法

われわれが健康で文化的な生活を営むためには自然環境をある程度改変せざるを得ないことは当然のこととはいへ、人間の生活には他の生物や自然景観との共存もまた不可欠である。限られた空間の中で人間の活動が拡大すれば、そこにある動植物・景観のすべてを残すことは不可能であるが、十分な配慮をすべきである。このためには、たとえ公共事業であっても自然環境の破壊は必要最小限にとどめ、そしてやむを得ず破壊するときには自然度の低いところを公平に選定すべきであり、そこに各地域の環境を評価する必要が生じてくる。

わが国では、とくに貴重で大切な自然環境だと判断される地域は国立公園や県立自然公園として保護され、それぞれ国民、県民の財産となっている。しかし都市やその近郊に住む市民がそこへ出かける回数は一年間に何度あるだろうか。それらは存在するという事実が我々の気持ちを豊かにするという意味で大変大事であるが、直接的効用は少ない。むしろ日常的に利用できる自然空間こそがわれわれの生活を豊かにする。たとえ希少な生物や

奇観がなくとも身近な自然を残す必要はここにあり、全国各地に市立や町立の自然公園が必要である。

自然公園を設置する際、その選定基準はといえば、貴重種の存否に偏していることは否めないが、それは自然を計る尺度のひとつにすぎない。ここでは大場(1983)および大場ら(1985)の提唱する定着度を用い、調査によって得られた植物目録をもとに各谷戸と尾根及び海岸の比較を試みた。

定着度とは「一つの調査地域に自生する植物の各種類を、その地域にきわめて古い時代に住み着いた土着の種類を一方の極とし、ごく最近にきわめて異質な地域から渡来した最も異境的な種類を他方の極とする尺度の上に盛ったもの」(大場ほか, 1985)で、その定着度を目安としてその地域の環境の程度を判断することができる。定着度の評価項目は、1. 移住の時期、2. 生活空間の自然人為度、3. 渡來の手段、4. 分類群の異質性、5. 生物地理上の異質性、の5個で、それぞれ5段階に評価し、もっとも土着的なものを5とし、もっとも異郷的なものを1としてあり、その総和が各種類の定着度となる。以上のように定着度指数は貴重種の有無や帰化率よりも総括的で優れた評価方法である。本研究では、調査地域の自然環境の評価に維管束植物による地域定着度指数を用いた。

結果と考察

今回の調査により、野比で435種の維管束植物、73種の大型菌類、シャジクモ(淡水の藻類)、及びイチョウウキゴケ(水生の苔類)など6種の蘚苔類が確認された。地域ごとの目録と種類数および地域定着度指数は第1表の通りである。維管束植物の各種類の存否は定着度指数の数値の記入の有無で示し、それ以外の植物と菌類の存在は+で示した。地域ごとの維管束植物の種類数と地域定着度指数だけを以下に示す。

	谷戸1	谷戸2	谷戸3	谷戸4
種類数	137	238	171	124
地域定着度指数	22.3	21.8	22.8	22.4
	谷戸5	谷戸6	尾根	海岸
種類数	94	130	117	87
地域定着度指数	21.2	23.6	23.6	21.1

○野比の植物相の特色

これまで、野比の植物相に関しては、今回の調査地域の北側部分の調査報告(石渡・西條, 1974)があり、隣接する長沢、津久井を含めた北下浦地域の種類数702(神奈

第1表 横須賀市野比の植物・菌類目録と地域別の分布、および維管束植物による地域定着度指数。

種名	学名	谷1	谷2	谷3	谷4	谷5	谷6	尾根	海岸
イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i>		9					9	
スズメノチャヒキ	<i>Bromus japonicus</i>		22					22	
ジュズダマ	<i>Coix lacryma-jobi</i>			13					
ギョウガシバ	<i>Cynodon dactylon</i>							11	
カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>	10		10		10			
メヒシバ	<i>Digitaria cilialis</i>		15		15	15			
コメヒシバ	<i>Digitaria timorensis</i>		15						
イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i>	14				14			
オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>					12		12	
オニウシノケダサ	<i>Festuca elatior subsp. arundinacea</i>				10				
ナギナタガヤ	<i>Festuca myuros</i>		11						
ドジョウツナギ	<i>Glyceria ischyronera</i>			24					
チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i>		24					24	
チゴザサ	<i>Isachne globosa</i>		23				23		25
ハチジョウススキ	<i>Miscanthus condensatus</i>								
ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>		24	24					
チヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i>	24	24		24				
シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>	11	11						
クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>			24					
ヨシ	<i>Phragmites communis</i>	24		24					
アズマネザサ	<i>Pleioblastus chino</i>	24	24	24	24	24	24	24	
スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>	13		13					
キンエノコロ	<i>Setaria glauca</i>	15				15			
エノコログサ	<i>Setaria viridis</i>		23					23	
シバ	<i>Zoysia japonica</i>			23				23	
カヤツリグサ科	CYPERACEAE								
オオスゲ	<i>Carex breviculmis</i>		23						
ハマアオスゲ	<i>Carex breviculmis</i> var. <i>fibrillosa</i>		24					24	
カサスゲ	<i>Carex dispalata</i>						24		
シラスゲ	<i>Carex doniana</i>			24					
ケスゲ	<i>Carex duvariana</i>	24	24	24	24		24	24	
マスクサ	<i>Carex gibba</i>	23	23	23	23		23		
ヒゴクサ	<i>Carex japonica</i>			24	24				
ヒカゲスゲ	<i>Carex lanceolata</i>		25					25	
ナキリスゲ	<i>Carex lenta</i>	24	24	24			24		
ミヤマシラスゲ	<i>Carex olivacea</i> var. <i>angustior</i>						25		
コウボウシバ	<i>Carex pumila</i>							25	
ヒトモトスキ	<i>Cladium chinensis</i>							25	
ヒメクグ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leolepis</i>		23						
イヌクグ	<i>Cyperus cyperoides</i>							23	
タマガヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>		15						
アゼガヤツリ	<i>Cyperus globosus</i>		23						
イガガヤツリ	<i>Cyperus polystachyos</i>							23	
マツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i>		23						
ハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> var. <i>japonica</i>		23					23	
ヒデリコ	<i>Fimbristylis miliacea</i>		23						
ホタルイ	<i>Scirpus juncoides</i>		24						
イスホタルイ	<i>Scirpus juncoides</i> var. <i>ohwianus</i>		24						
サトイモ科	ARACEAE								
カントウマムシグサ	<i>Arisaema serratum</i> f. <i>viridescens</i>			24					
ウラシマソウ	<i>Arisaema urashima</i>			24	24		24		
カラシビシャク	<i>Pinellia ternata</i>		15				15		
ウキクサ科	LEMINACEAE								
アオウキクサ	<i>Lemna paucicostata</i>	20	20	20					
ウキクサ	<i>Spirodela polyrhiza</i>	23	23	23					
ツユクサ科	COMMELINACEAE								
ツユクサ	<i>Commelinia communis</i>		23		23	23	23		23
ヤブミョウガ	<i>Pollia japonica</i>					24	24		
トキワツユクサ	<i>Tradescantia fluminensis</i>					8		8	
ミズアオイ科	PONTEDERIACEAE								
コナギ	<i>Monochoria vaginalis</i> var. <i>plantaginea</i>			15					
イグサ科	JUNCACEAE								
イ	<i>Juncus effusus</i> var. <i>decipiens</i>	23		23	23				
クサイ	<i>Juncus tenuis</i>		23						
タチコウガイゼキショウ	<i>Juncus krameri</i>							24	
ユリ科	LILIACEAE								
ノビル	<i>Allium macrostemon</i>						23	23	
クサシギカズラ	<i>Asparagus cochinchinensis</i>			25					
ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>	24	24	24	24		24		
ヤブカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i>			16		16			
オオバギボウシ	<i>Hosta montana</i>					24			
ヤマユリ	<i>Lilium auratum</i>		24	24				24	

種名	学名	谷1	谷2	谷3	谷4	谷5	谷6	尾根	海岸
スカシユリ	<i>Lilium macratum</i>							25	
ヤブラン	<i>Liriope platyphylla</i>	25	25	25	25	25	25	25	
ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>		25	25	25	25	25	25	
オオバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon planiscapus</i>	25		25					
ナルコユリ	<i>Polygonatum falcatum</i>		24					24	
キチジョウソウ	<i>Reineckia carnea</i>		16				16	16	
ツルボ	<i>Scilla scilloides</i>		24				24	24	
サルトリイバラ	<i>Smilax china</i>		24	24			24	24	
シオデ	<i>Smilax riparia var. ussuriensis</i>				24	24	24	24	
ハマカンヅウ	<i>Hemerocallis fulva var. littorea</i>				24	24	24	24	
ヤマノイモ科	DIOSCOREACEAE							25	
ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	24	24	24	24	24	24	24	
オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	23	23	23	23	23	23	23	
アヤメ科	AMARYLLIDACEAE								
シャガ	<i>Iris japonica</i>			15			15		
ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium atlanticum</i>		10						
ヒメヒオウギズイセン	<i>Tritonia x crocosmaeflora</i>								9
ラン科	ORCHIDACEAE								
エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	24		24					
キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>							24	
シュンラン	<i>Cymbidium goeringii</i>							25	
マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>							25	
タシロラン	<i>Epipogium roseum</i>							25	
ミヤマウズラ	<i>Goodyera schlechtendaliana</i>							25	
ヒメノヤガラ	<i>Heteraria shikokiana</i>			25					
クロムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i>							25	
コクラン	<i>Liparis nervosa</i>	25	25					25	
ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis var. amoena</i>	23							
[双子葉植物]	DICOTYLEDONEAE								
ドクダミ科	SAURURACEAE								
ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>		24	24					
ハンゲショウ	<i>Saururus chinensis</i>			25					
センリョウ科	CHLORANTHACEAE								
フタリシズカ	<i>Chloranthus serratus</i>						25		
ヤナギ科	SALICACEAE								
ジャヤナギ	<i>Salix eriocalpa</i>	14		14					
ヤマモモ科	MYRICACEAE								
ヤマモモ	<i>Myrica rubra</i>		25						
カバノキ科	BETULACEAE								
ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>	25		25					
オオバヤシャブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>			24			24		
ブナ科	FAGACEAE								
クリ	<i>Castanea crenata</i>		24	24	24	24	24	24	
スタジイ	<i>Castanopsis sieboldii</i>	25	25	25	25	25	25	25	
アカガシ	<i>Cyclobalanopsis acuta</i>		25						
マテバシイ	<i>Pasania edulis</i>	16	16	16	16	16	16	16	
コナラ	<i>Quercus serrata</i>	24	24	24	24	24	24	24	
ニレ科	ULMACEAE								
ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>		24	24	24	24	24	24	
エノキ	<i>Celtis sinensis</i>	24	24	24	24	24	24	24	
ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>				25	24	24	25	
クワ科	MORACEAE								
ヒメコウゾ	<i>Broussonetia kazinoki</i>	14		14	14	14	14	14	
イスビワ	<i>Ficus erecta</i>	25	25	25	25	25	25	25	
イタビカズラ	<i>Ficus nipponica</i>			24	24	24	24	24	
カナムグラ	<i>Humulus japonica</i>								
ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	24	24	24	24	24	24	24	
イラクサ科	URTICACEAE								
ハマヤブマオ	<i>Boehmeria arenicola</i>			24					
ラセイタソウ	<i>Boehmeria biloba</i>							25	
カタバヤブマオ	<i>Boehmeria dura</i>								
ウスバラセイタソウ	<i>Boehmeria hispidula</i>						24		
カラムシ	<i>Boehmeria nivea var. concolor</i>						15		
コアカソ	<i>Boehmeria spicata</i>			24					
ミズ	<i>Pilea kiotensis</i>								
ヤドリギ科	LORANTHACEAE								
ヤドリギ	<i>Viscum album var. coloratum</i>							25	
ウマノスズクサ科	ARISTOLOCHIACEAE								
オオバウマノスズクサ	<i>Aristolochia kaempferi</i>	24	24	24	24	24	24	24	
タデ科	POLYGONACEAE								
ミズヒキ	<i>Polygonum filiforme</i>	24	24	24	24	24	24	24	
シロバナサクラタデ	<i>Polygonum japonicum</i>	25	25						

種名	学名	谷1	谷2	谷3	谷4	谷5	谷6	尾根	海岸
オオイヌタデ	<i>Polygonum lapathifolium</i>					15			
イヌタデ	<i>Polygonum longisetum</i>					16			
イシミカワ	<i>Polygonum perfoliatum</i>					24			
ミゾソバ	<i>Polygonum thunbergii</i>	23	23	23	23				
ハナタデ	<i>Polygonum caespitosum</i> var. <i>laxiflorum</i>					24			
イタドリ	<i>Polygonum cuspidatum</i>	24	24	24		24			24
スイバ	<i>Rumex acetosa</i>	17	17	17					
アレチギシギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>			12	12	12		12	
ギシギシ	<i>Rumex japonicus</i>	24	24	24				24	
アカザ科	<i>CHENOPODIACEAE</i>								
シロザ	<i>Chenopodium album</i>			14					
ケアリタソウ	<i>Chenopodium ambrosioides</i>					11			
ヒユ科	<i>AMARANTHACEAE</i>								
ヒナタイノコズチ	<i>Achyranthes fauriei</i>		24		24	24	24		24
イヌビュ	<i>Amaranthus lividus</i>		12						
ヤマゴボウ科	<i>PHYTOLAC CACEAE</i>					11		11	
ヨウショウヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i>								
ツルナ科	<i>AIZOACEAE</i>								
ザクロソウ	<i>Mollugo pentaphylla</i>							12	
ツルナ	<i>Tetragonia tetragonoides</i>								11
スペリヒユ科	<i>PORTRULACACEAE</i>								
スペリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>			11					
ナデシコ科	<i>CARYOPHYLLACEAE</i>								
オランダミミナグサ	<i>Ceratium glomeratus</i>	12	12						
ノミノフスマ	<i>Stellaria alsine</i> var. <i>undulata</i>			23					
ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>	23	23	23	23	23			
コハコベ	<i>Stellaria media</i>			13					13
ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i>			11					
キンポウゲ科	<i>RANUNCULACEAE</i>								
ツクバトリカブト	<i>Aconitum tsukubense</i>		24	24		24	24		
ヒメウズ	<i>Aquilegia adoxoides</i>	24	24	24		24			
イヌショウマ	<i>Cimicifuga japonica</i>	25	25	25	25		25		
ハンショウヅル	<i>Clematis japonica</i>							24	
センニンソウ	<i>Clematis ternifolia</i>	24	24	24					24
ケキソネノボタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i>	16				16			
キツネノボタン	<i>Ranunculus quelpaertensis</i>	23		23					
アキカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>hypoleucum</i>	24	24		24		24		
アケビ科	<i>LARDIZABALACEAE</i>								
アケビ	<i>Akebia quinata</i>				24		24		
ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i>	24	24		24		24		
ツヅラフジ科	<i>MENISPERMACEAE</i>								
オツヅラフジ	<i>Cocculus trilobus</i>	24	24						
モクレン科	<i>MAGNOLIACEAE</i>								
サネカズラ	<i>Kadzura japonica</i>			25	25	25		25	
クスノキ科	<i>LAURACEAE</i>								
ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum japonicum</i>		25	25		25	25	25	
クロモジ	<i>Lindera umbellata</i>				25	25			
タブノキ	<i>Machilus thunbergii</i>		25	25	25	25			
シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>	25	25	25	25	25	25	25	
アブラナ科	<i>CRUCIFERAE</i>								
タネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa</i>	23	23	23			23		
ミズタネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa</i> var. <i>latifolia</i>			23					
オオバタネツケバナ	<i>Cardamine scutata</i>			25					
ハマダイコン	<i>Raphanus sativus</i> var. <i>hortensis</i>							12	
イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>	15	15		15	15	15		
ベンケイソウ科	<i>CRASSULACEAE</i>								
コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>	23		23					
タイトゴメ	<i>Sedum oryzifolium</i>							25	
トベラ科	<i>PITTOSPORACEAE</i>								
トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>		25	25	25		25	25	25
ユキノシタ科	<i>SAXIFRAGACEAE</i>								
ウツギ	<i>Deutzia crenata</i>				24	24			
マルバウツギ	<i>Deutzia scabra</i> var. <i>scabra</i>	24	24	24	24		24	24	
ガクアジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i> f. <i>normalis</i>			24					
バラ科	<i>ROSACEAE</i>								
ヒメキンミズヒキ	<i>Agrimonia nipponica</i>						24		
キンミズヒキ	<i>Agrimonia pilosa</i>						24		
クサボケ	<i>Chaenomeles japonica</i>							24	
ヘビイチゴ	<i>Duchesnea chrysanthra</i>		24	24	24				
ヤブヘビイチゴ	<i>Duchesnea indica</i>							24	
ダイコンソウ	<i>Geum japonicum</i>	24	24	24	24	24	24	24	
カマツカ	<i>Pourthiae villosa</i> var. <i>leavis</i>	24	24	24	24			24	

種名	学名	谷1	谷2	谷3	谷4	谷5	谷6	尾根	海岸
キジムシロ	<i>Potentilla fragarioides</i> var. <i>major</i>							24	
マメザクラ	<i>Prunus incisa</i>							25	
オオシマザクラ	<i>Prunus lannesiana</i> var. <i>speciosa</i>	24					24	24	
ヤマザクラ	<i>Prunus jamasakura</i>	24							
マルバシャリンバイ	<i>Rhaphiolepis umbellata</i> var. <i>integerrima</i>							24	
ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>		24	24	24				
テリハノイバラ	<i>Rosa wichuraiana</i>	24	24						24
マナヅルキイチゴ	<i>Rubus manazurensis</i>			24					
モミジイチゴ	<i>Rubus palmatus</i> var. <i>corytophyllus</i>	24	24	24		24	24		
ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	24	24			24	24		
カジイチゴ	<i>Rubus trifidus</i>								
ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>							24	
コゴメウツギ	<i>Stephananhra incisa</i>	24		24					
マメ科	LEGUMINOSAE								
クサネム	<i>Aeschynomene indica</i>		24					24	
ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>		24			24	24		24
ヤブマメ	<i>Amphicarpaea edgeworthii</i>		24		24	24	24	24	24
ヌスピトハギ	<i>Desmodium oxyphyllum</i>	24		24					
ノササゲ	<i>Dumasia truncata</i>	24	24	24	24				
ツルマメ	<i>Glycine soja</i>		24	24					
コマツナギ	<i>Indigofera pseudo-tinctoria</i>						24	24	
ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>		24	24				24	
キハギ	<i>Lespedeza buergeri</i>						24		
マルバハギ	<i>Lespedeza crytobotrya</i>		24						
コメツブワガヤシ	<i>Medicago lupulina</i>			12					
クズ	<i>Pueraria lobata</i>	24	24	24	24	24			
タンキリマメ	<i>Rhynchosia volubilis</i>		24	24				24	
シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>		9			9			
ヒロハクサフジ	<i>Vicia japonica</i>								24
ヤハズエンドウ	<i>Vicia sepium</i>		12						
ナンテンハギ	<i>Vicia unijuga</i>	24	24	24					
フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	24	24		24		24		
フウロソウ科	GERANIACEAE								
ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>		24	24			24		
カタバミ科	OXALIDACEAE								
カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>			23	23	23	23		
ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>			11					
ミカン科	RUTACEAE								
カラスザンショウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i>	24	24	24	24	24	24	24	
サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>							24	
ヒメハギ科	POLYGALACEAE								
ヒメハギ	<i>Polygala japonica</i>							24	
トウダイグサ科	EUPHORBIACEAE								
エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>		23	23					
ヒメユズリハ	<i>Daphniphyllum teijsmannii</i>			25				25	
コニシキソウ	<i>Euphorbia supina</i>	11	11						11
ナツトウダイ	<i>Euphorbia sieboldiana</i>	24	11						
アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	24	24	24	24	24	24	24	
コミカンソウ	<i>Phyllanthus urinaria</i>			23					
ドクウツギ科	CORIARIACEAE								
ドクウツギ	<i>Coriaria japonica</i>							24	
ウルシ科	ANACAROIAEAE								
スルデ	<i>Rhus japanica</i>								
ハゼノキ	<i>Rhus succedanea</i>		24	24	24	24	24	24	
モチノキ科	AQUIFOLIACEAE								
イスツゲ	<i>Ilex crenata</i>								
モチノキ	<i>Ilex integra</i>			25				25	25
ニシキギ科	CELASTRACEAE								
ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i>								
コマユミ	<i>Euonymus alatus</i> f. <i>ciliato-dentatus</i>							24	
ツルオオバマサキ	<i>Euonymus japonicus</i> var. <i>radicifer</i>		25	25					25
マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>		24	24	24				
クロウメモドキ科	RHAMNACEAE								
ケンボナシ	<i>Hovenia dulcis</i>					24			
クマヤナギ	<i>Berchemia racemosa</i>							24	
ブドウ科	VITACEAE								
ノブドウ	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>								25
ヤブカラシ	<i>Cayratia japonica</i>		23	23	23	23		23	23
ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	24	24	24	24			24	24
エビヅル	<i>Vitis ficifolia</i> var. <i>lobata</i>		24	24		24		24	24
ツバキ科	THEACEAE								
ツバキ	<i>Camellia japonica</i>		22	22	22	22			

種名	学名	谷1	谷2	谷3	谷4	谷5	谷6	尾根	海岸
ヒルガオ	<i>Calyptegia japonica</i>			23					
ハマヒルガオ	<i>Calyptegia soldanella</i>								25
ムラサキ科	BORAGINACEAE								
ホタルカズラ	<i>Buglossoides zollingeri</i>				25			25	
クマツヅラ科	VERBENACEAE								
ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	24	24	24	24	24	24	24	
クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	24	24			24		24	
イワダレソウ	<i>Lippia nodiflora</i>								25
アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i>		9			9			9
ハマゴウ	<i>Vitex rotundifolia</i>								25
シン科	LABIATAE								
キランソウ	<i>Ajuga decumbens</i>			24			24		
トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>		24	24	24				
イストウバナ	<i>Clinopodium micranthum</i>			24					
カキドオシ	<i>Glechoma hederacea var. grandis</i>								24
アキノタムラソウ	<i>Satvia japonica</i>	24	24	24	24				
コバノタツナミ	<i>Scutellaria indica var. parvifolia</i>		24	24		24	24		
ニガクサ	<i>Teucrium japonicum</i>						24		
ナス科	SOLANACEAE								
クコ	<i>Lycium chinense</i>		24						24
イガホオズキ	<i>Physalisstrum japonicum</i>					25			
ヒヨドリジョウガ	<i>Solanum lyratum</i>	24	24				24		
イスホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>		14		14	14			
タマサンゴ	<i>Solanum pseudo-capsicum</i>							11	
ゴマノハグサ科	SCROPHULARIACEAE								
アメリカアゼナ	<i>Linderenia dubia</i>		11						
アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i>		23						
トキワハゼ	<i>Mazus japonicus</i>	23			23				
コシオガマ	<i>Phtheirospermum japonicum</i>						24		
タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>	11		11					
フラサバソウ	<i>Veronica hederaefolia</i>								11
オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>	11		11					
キソネノマゴ科	ACANTHACEAE								
キソネノマゴ	<i>Justicia procumbens var. leucantha</i>	24	24						
ハエドクソウ科	PHRYMACEAE								
ハエドクソウ	<i>Phryma leptostachya var. asiatica</i>					24	24	24	
オオバコ科	PLANTAGINACEAE								
オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	22	22		22	22	22	22	
トウオオバコ	<i>Plantago major var. japonica</i>								24
アカネ科	RUBIACEAE								
ヤマムグラ	<i>Galium pponanthum</i>	23	23	23					
ヤエムグラ	<i>Galium spurium var. echinospermon</i>			23					
ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens var. mairei</i>	24	24	24	24	24	24	24	
アカネ	<i>Rubia akane</i>		24	24		24			
ハナヤエムグラ	<i>Sherardia arvensis</i>								
スイカズラ科	CAPRIFOLIACEAE								
スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>		24	24	24				
ニワトコ	<i>Sambucus sieboldiniana</i>		23	23		23	23		
ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	24	24	24	24				
コバノカマズミ	<i>Viburnum erosum</i>		24					24	
サンゴジュ	<i>Viburnum avabuki</i>		15	15				15	
ハコネウツギ	<i>Weigela coraeensis</i>	24	24	24	24		24		
ウリ科	CUCURBITACEAE								
アマチャヅル	<i>Gynostemma pentaphyllum</i>	23	23	23	23		23	23	
スズメウリ	<i>Melothria japonica</i>					23		23	
カラスウリ	<i>Trichosanthus cucumeroides</i>	24	24			24			
キキョウ科	CAMPANULACEAE								
ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla var. japonica</i>		20			20	20	20	
ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i>	24	24		24		24		
ヤマホタルブクロ	<i>Campanula punctata var. hondoensis</i>		24						
キク科	ASTERACEAE								
キッコウハグマ	<i>Ainsliaea apiculata</i>						24	24	
ブタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia var. elatior</i>		9		9			9	
ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	24	24	24				24	
ノコンギク	<i>Aster ageratoides var. ovatus</i>		24					24	
シロヨメナ	<i>Aster ageratoides f. leucanthus</i>	24	24	24	24			24	
シラヤマギク	<i>Aster scaber</i>						24		
ホウキギク	<i>Aster subulatus</i>		15					15	
ヒロハホウキギク	<i>Aster sp.</i>							10	
オケラ	<i>Atractylodes japonica</i>							24	
アメリカセンダンゲサ	<i>Bidens frondosa</i>		10		10			10	
ガンクビソウ	<i>Carpesium divaricatum</i>						24		

種名	学名	谷1	谷2	谷3	谷4	谷5	谷6	尾根	海岸
サジガンクビソウ	<i>Carpesium glossophyllum</i>		24					24	
リュウノウギク	<i>Chrysanthemum makinoi</i>							25	
イソギク	<i>Chrysanthemum pacificum</i>								25
ノアザミ	<i>Cirsium japonicum</i>						24		
イガアザミ	<i>Cirsium nipponicum</i> var. <i>comosum</i>							25	
ベニバナボロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i>		9		9				
タカサゴブロウ	<i>Eclipta prostrata</i>	14	14			14			
ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>				11	11			
ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>		11	11					
オオアレチノギク	<i>Erigeron sumatrensis</i>		11		11	11			
ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium chinensis</i> var. <i>simplicifolium</i>					24	24	24	
ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i>	25	25	25			25	25	
ハキダメギク	<i>Galinsoga ciliata</i>			10		10			
ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>			23		23			
チコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>								24
チコグサモドキ	<i>Gnaphalium purpureum</i>		11	11	11		24	24	
ニガナ	<i>Ixeris dentata</i>								
オオジンバイ	<i>Ixeris japonica</i>				24				24
イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>								24
カントウヨメナ	<i>Kalimeris pseudoyomena</i>	24							24
ケムラサキニガナ	<i>Lactuca sororia</i> var. <i>pilipes</i>					24	24		
ヤブタビラコ	<i>Lapsana humilis</i>				24				
コウヤボウキ	<i>Pertya scandens</i>	24	24	24					24
フキ	<i>Petasites japonicus</i>		24	24	24				
コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> subsp. <i>japonica</i>								24
ハマコウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> var. <i>litoralis</i>								24
シュウブンソウ	<i>Rhynchospermum verticillatum</i>					24			24
タムラソウ	<i>Serratula coronata</i> subsp. <i>insularis</i>								24
セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>			24					
オニノゲシ	<i>Sonchus asper</i>			11	11	11			11
ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>			13					
アカミタンボボ	<i>Taraxacum laevigatum</i>			13					
セイヨウタンボボ	<i>Taraxacum officinale</i>		11			11			
カントウタンボボ	<i>Taraxacum platycarpum</i>		24		24			24	
ハマグルマ	<i>Wedelia prostrata</i>								25
オオナモミ	<i>Xanthium canadense</i>				9	9			
オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>				23	23			
定着度指數統計		3051	5188	3893	2777	1994	3068	2756	1834
定着度指數平均値=地域定着度指數		22.3	21.8	22.8	22.4	21.2	23.6	23.6	21.1
種類数		137	238	171	124	94	130	117	87

川県植物誌調査会編, 1988)が明かであった。今回の調査によって確認された435という種類数は、三浦半島全域約1300種の3分の1に当たる。また、今回維管束植物以外の植物や菌類に関しては、予備的に調査したに過ぎないが、興味深い種類を得ることができたのであわせて報告する。これらのうち、野比の植物相を特色づける植生や種について以下に述べる。

1) 尾根や谷戸斜面の植物 三浦半島の潜在自然植生はほとんどが暖温帯照葉樹林であり、この野比においても同様である。現在の植生はすでに破壊されたため、典型的な照葉樹林とはいえないが、林床にはイノデ、アスカイノデ、ベニシダ、オオイタチシダといったシダ植物が数多くみられ、またつる植物のティカカズラや低木のアオキなどが豊富に生育する。この地域では放置すれば尾根にスダジイ林、谷にタブノキ林が形成されるものと推定されている(石渡・西條, 1974)。

西側の尾根に見られる広いマテバシイ林は純林であり、この特徴の一つである。さらにこの林床には、腐生植物のタシロラン、マヤラン、クロムヨウラン、アキノギンリョウソウなども見られ、神奈川県内ではいずれも野比が数少ない産地の一つとなっている。とくに、タシロランは神奈川県以南でしか記録がなく、クロムヨウランは神奈川県では横浜北部で見られるのみであり、地理的分布の上でも注目される。また谷戸2から尾根への途中で発見されたヒメノヤガラは神奈川県では初記録となつた。これら腐生植物は菌類と共生し、その生育の背景となる環境の豊かさをよく示すものであり、ここにも野比の自然の特徴がよくあらわれている。

調査地東側の尾根にマメザクラが存在することは房総や丹沢との植物相の関連性を示し興味深い。

2) 谷戸の植物 調査地北側では谷戸の入口はすでに破壊された植生であるものの、谷戸の奥は良好な自然が保たれていますと指摘された(石渡・西條, 1974)が、調査地全域を通じて同じことがいえる。谷戸奥の湿地帯あるいは廃田には、ミヅソバ、ヨシ、セリなどが繁り、それに加えて、谷戸3ではハンゲショウ、谷戸6ではカサスゲが群生していることは特筆に値する。これらは宅地造成や埋め立てにより、その多くが三浦半島ではすでに失われたものと考えられるからである。

水路上流から中流域では水量が不安定で、土壤が侵食されやすいため、両岸に植物が密生してはいないが、そこには、オオバタネツケバナやミズタネツケバナのほか、蘚苔類が多くみられる。

谷戸2の水路の下流では護岸されているものの、水量が少ないため、中洲ができ、ガマやコガマが群生してい

る。

このように、たとえ100haほどの狭い地域ではあっても、各谷戸はかなり異なる植物相を示している。

3) 水田の植物 調査地南側の谷戸1と2の入口付近は水田になっており、ウリカワ、オモダカなど多くの水田雑草が見られる。水田内にはこのほか、オオアカウキクサ、ウキクサ、アオウキクサ、コナギ、キカシグサ、畦にはマツバイ、ハリイ、ヒデリコ、ホタルイ、などが生育している。これらの植物も最近では畦のコンクリート護岸が進み、また除草剤の散布などにより、半島内の他の水田ではあまり見ることのないものである。

4) 海岸の植物 野比の海岸は、三浦半島東部では最も豊富な海岸植物相をもち、とくに海岸草地や海崖の植物相が豊かである。たとえば、海崖には南関東特産のイソギクが群生し、東北日本に多いスカシユリ、西南日本の太平洋岸に多いヒトモトスキなども見られる。現在三浦半島では城ヶ島だけに見られるハイネズもかつてここで記録されている。また、砂浜にはハマボウフウ、ハマヒルガオ、ハマゴウが生え、岩の上にはイワダレソウやタイトゴメが多い。

5) 蘚苔類と車軸藻植物 今回の調査で記録された6種の蘚苔類のうち、浮遊性のイチョウウキゴケは、比較的水のきれいな場所に生育するといわれており、ここでの水田の水質の良さを反映していると考えられる。また同じく水田中に、大型藻類の一種シャジクモが毎年見られることも特筆に値する。

谷戸2の水路にはホソバミズゼニゴケ、ツクシナギゴケ、フジウロコゴケ、オオウロコゴケ、谷戸6の水路にはツクシナギゴケ、チャボシノブゴケが見られ、いずれも東京付近に割合普通のものである(水島うらら氏私信)。

6) マテバシイ 本種は三浦半島では多くの場合尾根に沿って生えていることが多いが、ここで見られるようになだらかな丘陵地形上に広く純林をつくっているところは少ない。直径40~50cmのひこばえが多く、かつて薪炭林として利用された形跡がある。三浦半島内の縄文遺跡からはアカガシ、コナラ、スダジイなどの果実の発掘例はあるが、マテバシイの例はなく、おそらく弥生時代以後人為的に分布したものと考えられる。林内は日中でも薄暗く、林床にはマテバシイの落ち葉が厚く堆積している。最近マテバシイ林でタシロラン、クロムヨウランなど数種の腐生植物が相次いで発見されたが、これは林内に低木層がほとんどなく、シイ・タブ林に比べて林内の植物相が貧弱とみられ、これまで詳しく調査される機会に恵まれなかったためと考えられる。

7) タシロラン タシロランは最近まで三浦半島が分

布の北限といわれ、希な植物であったが、最近神奈川県中部の大磯付近でも発見されている(内田、1988)。三浦半島では梅雨の後半のごく短い期間だけに地上部がみられる(大森、1987)ので、見逃しがちであるが、かなりの数がみられる。観音崎ではスダジイ・シロダモ林下で採集されたが、野比ではマデバシイ林下で見られた。

8) クロムヨウラン これもタシロラン、マラヤンとともに最近相次いで発見されるようになった植物で、三浦半島では野比以外に横須賀市浦賀、三浦市上宮田、小網代などで記録されている。野比ではマテバシイ林下に見られ、マラヤンと隣接して生えていた。

9) ヒメノヤガラ 1989年7月8日の自然観察会で発見されたもので、神奈川県では初めての記録である。岩手県から鹿児島県のシイ・タブ帶上部からクリ帯にかけての林内斜面に生育し、全国的にも採集例が少ない(前川、1971)。野比では谷戸2から尾根に上がる途中の林道脇に1個体見られた。野比のほかの腐生ランはすべてマテバシイ林下に生えていたが、本種はスダジイを主体にした雑木林の下で見られた。

10) マメザクラ 富士山周辺に多いためフジザクラとも呼ばれるマメザクラは、三浦半島ではまれであり、かつて逗子市二子山で採取された記録がある。野比では調査地東部の枝尾根で高さ1~2mの小さな株が3個体確認され、1株は果実をつけていた。神奈川県では相模川以西と多摩丘陵に、房総半島では南部に普通見られるので、地史的には、三浦半島が丹沢箱根地方と房総半島のフロラを結ぶ位置にあり、共通のフロラを有していたと考えると証拠の一つになる。

○野比の大型菌類相の特色

三浦半島における菌類相の報告は、逗子市神武寺の目録(今関ほか、1987)があるにすぎず、三浦半島の自然を理解する上で欠かせない半島全体の菌類相の解明は、今後の大きな課題の一つである。今回の調査で得られた目録は、植物の種類数から推定して野比のきのこの10%に満たない数と考えられる。しかし、その生態系における役割の大きさを考え記録することにした。

今回の採集品中、オオトガリアミガサタケ、マユハキタケ、ミミズサタケ、などは、横須賀市内で初めて記録された種類である。とくに、マユハキタケはタブノキの枯木に生えるといわれ、まさにここの植物相を反映している。このほか、クロマツ林にはそこに特有なウラムサキなどが出現し、植物相の豊かさに比例するように菌類相も豊かであろうことが推定される。

なお、神奈川県の菌類相に関しては、過去10年にわたり神奈川キノコの会により、毎年採集会の記録がその会

報「くさびら」第1~12号(1978~1990)に掲載されており、比較のためそれを参考とした。

○野比の自然環境の評価

ある地域の自然の状態の目安となる地域定着度指数は、市街地の多い横須賀東北部で20~21であり(大場、1988)、それに比べこの野比では21~24とかなり数値が高い。これは野比に土着の植物が多いことを意味する。三浦半島全域をみても、これだけ土着の植物の多い地域は少なく、野比はもっとも自然環境が良好な地域の一つといえる。

植物も他の生物同様、ある広さの生活空間が確保されるとともに、他の生物とのかかわりの中ではじめて健全に生育できることを考えると、特定の谷戸だけを残すのではなく、尾根を含めた全体の保全が必要である。もちろん、その中には、海岸のクロマツ林や、半自然的環境である水田を含む方が、多様性を確保する上でよりよいであろう。このような多様な自然環境を十分兼ね備えていることが野比の大きな特色である。

定着度指数による評価は21以上が優れた住環境、23以上が自然公園としての条件を備えていると考えられている(大場ほか、1985)が、その数値の合致する谷戸3と6及び尾根を中心にして、この地域は身近な市立の自然公園などとするにふさわしい地域といえる。

一方、水田は、たんに食料の確保というだけでなく、過去2000年以上にわたって水田耕作に生活史を合わせた動植物(われわれ人間も含まれる)の快適な環境を守るという意味でも、それを保護する必要が生じてきている。水田を管理し、森林や海岸の植生を時間をかけて育てることも、国立公園などとは異なる、身近な自然公園の一つのあり方である。

現在のこの地域の森林には三浦半島の自然植生を代表するシイ林、タブノキ林が必ずしも十分に生育していないが、尾根には数種の腐生ランをはじめ希少な植物が数多く生育し、またここにみられる林床、林縁の植物相の豊富さから、石渡・西條(1974)がすでに指摘したように、シイ・タブ林への発展途上にあることは間違いない、その立地条件を備えている。

また、横須賀市東部の海岸線のほとんどは人工海岸であるが、野比の海岸線や千駄ヶ崎の尾根筋はあまり人の手が加えられておらず、残された海岸植生は貴重である。これらも含めて今回の調査地域は市立の自然公園とするに値すると考える。

謝辞：植物相に関しては横須賀植物会や横須賀ほたるの会の会員の皆さんから分布情報の提供をいただき、蘚苔類は水島うらら、水谷正美、渡辺良象の各先生に同定し

ていただいた。また、菌類の同定に関しては、今関六也、大谷吉雄、城川四郎の各先生にお世話になり、国立久里浜病院周辺のクロマツ林での採集に関しては長雄市子さん、長雄海太郎君、斎藤龍徳君にご協力いただいた。さらに1990年7月15日には自然観察会「夏のきのこ」参加者のご協力をいただいた。以上、調査結果をまとめるに当たり感謝いたします。

追記：調査地域内でもっとも広い谷戸1は当初の計画通り、1990年初めから宅地造成が始められた。

引用文献

- 今関六也・大谷吉雄・大森雄治 1987. 逗子市神武寺のキノコ(採集品目録). 横須賀市博館報, (34): 3-6.
- 石渡治一・西條好迪 1974. 久里浜 CPC 倉庫地区調査報告, 3・植物分布調査報告. 横須賀市文化財調査報告書, (5): 9-24.
- 神奈川県植物誌調査会編 1988. 神奈川県植物誌1988. 1442ページ. 神奈川県立博物館.
- 前川文夫 1971. 原色日本のラン. 495ページ. 誠文堂新光社.
- 大場達之 1983. 定着度指数(ECESIS指數)の試み. 現代生態学の断面編集委員会編「現代生態学の断面」: 34-40. 共立出版.
- 大場達之 1988. 植物による環境評価, 神奈川県植物誌 1988: 1381.
- 大場達之・高橋秀男・中川重年 1985. 植物による環境評価. 神奈川県環境部会共同研究報告書, 17: 31-37.
- 大森雄治 1987. 觀音崎におけるタシロランの生育状況. 横須賀市博館報, (34): 1-2.
- 内田藤吉 1988. タシロラン発見一大磯高麗山にて. *Flora Kanagawa*, (25): 219. 神奈川県植物誌調査会.